

「地域に学び、地域に育つ

——縦断的地域志向教育による人材育成の実践——」

演者：田中 響

鳥取看護大学 看護学部看護学科 教授

抄録

本講演では、未来志向の看護教育を目指し、本学が構築した地域志向型カリキュラムの実践について紹介する。看護職には、病院内にとどまらず地域社会をフィールドとし、多様な生活背景や健康課題に対応する力が求められる。本学では「地域を知り、地域に学び、地域とともに成長する看護者の育成」を教育理念とし、1年次から4年次まで縦断的に地域志向科目を配置している。

最大の特徴は、学年間の交流を重視した実習体制である。1年生と4年生が同じ地域のコミュニティセンターで活動し、4年生は自ら企画したプロジェクトに1年生を巻き込み、指導・助言を行いながら共に実習を進める。1年生は、地域で主体的に行動する4年生の姿をモデルとして捉え、自らの将来像を具体化する。この双方向の関わりが学びの連鎖を生み、地域への理解と貢献意欲を高める。

実習では、地域住民との交流を通じて健康観や生活観の多様性に触れ、地域に潜む課題を自ら発見する。そしてその課題に対して、小規模ながらも実践的な解決策を試みることで、「自分たちの力が地域を変える可能性がある」ことを実感する。学生たちは地域で働くことに誇りと喜びを見出し、将来、地域の一員として活躍する意欲を育てていく。

本講演では、こうした地域志向教育の構築過程、具体的な活動事例、学生や地域からの評価、教育効果について紹介し、地域社会と大学が共に育ち合う持続可能な教育モデルの可能性を考察する。

「医療とケアの現象学:総合診療医としての私の経験から」

演者：孫 大輔

鳥取大学医学部 地域医療学講座 准教授

座長：山田 修平

学校法人 藤田学院 理事長／鳥取看護大学 学長

抄録

本講演では、現象学の視座から医療とケアの本質を問い直す試みを、総合診療医としての実践経験に基づいて紹介する。医療現場においては、検査や診断では捉えきれない「病いの意味」や「苦悩の経験」にいかに向き合うかが常に問われている。フッサールの志向性、ハイデガーの世界内存在、メルロ＝ポンティの身体性、レヴィナスの他者論といった現象学の思想を手がかりに、患者の語りや沈黙に応答する姿勢の重要性を論じる。現象学は、医学的説明では取りこぼされる主観的経験に光を当て、「わからなさ」にとどまりつつ応答する態度を支える哲学である。看護教育においても、ケアの倫理と実践を深めるための有効な視点となりうると考える。

『『地域立』の鳥取看護大学がめざすもの —変化への果敢な対応と不易なものへの深化—

演者：山田 修平

学校法人 藤田学院 理事長／鳥取看護大学 学長

抄録

鳥取看護大学は、令和7年に創立11年目を迎えた。私立であるが、設立の経緯、理念、そして実態からも『地域立』の大学である。鳥取県看護連盟、それに呼応した様々な社会、経済団体、地域住民、そして鳥取県、中部1市4町の要請と物心両面の多大な支援によって設立された経緯。法人の理念と同一の「地域に貢献する人材の育成」という建学理念、この理念に基づき、教育目的に沿ったカリキュラム、そこに集い、学び、巣立っていった学生たちの状況、まさに地域のための地域の大学である。

私たちは、地域に貢献する人材育成をめざすが、常に時代の急激な変化に対応する取り組みを行っている。その代表例が、昨年度文部科学省の新補助金キラリと光る教育力で教育と大学運営の活性化をはかる取り組みとして、全国一位の補助金を獲得した「地域における遠隔看護システムの確立に寄与する人材育成」である。山間地であれ、離島であれ、また病院から退院後地域で暮らす人々につながる方法と技術、そしてそれ以上にコミュニケーションと心配りのできる人材の育成である。

大学では専門技術、知識を学ぶが、その根底に深く、豊かな人間性を培うことが第一義である。いわばすべての時代を通して不変、不易のものが大学教育には求められる。

私たちの思い、取り組みをお話したい。